

基幹センター地域支援課活動報告

みやぎ心のケアセンター

基幹センター 地域支援課

課長 保健師 甘糟 郁

課長補佐 保健師 大場 幸江

課長補佐 作業療法士 香山 明美

1. はじめに

みやぎ心のケアセンター基幹センター地域支援課（以下、当センター）は、15名の職員で構成される。このうち、名取市と塩竈市には2名出向した。

担当する地域は、石巻と気仙沼エリア以外の全県域である。主に津波被害のあった沿岸部7つの市町では定期的支援を行ない、その他内陸部においては、ニーズに応じた支援を行った。

本稿では、地域支援課が平成28年度に行った支援活動のふりかえりから得られた考察を加え、実績を報告する。

2. 活動について

平成28年度の地域支援課の活動時間を6つの柱ごとに見ると、図1に示すとおり、『地域住民支援』が一番多かった。平成26年度から平成28年度までの3年間を比較してみると活動時間が減っているが、割合としての大きな変化はなかった。『支援者支援』については活動時間の割合には差がないが、内容が年々変化してきている。これらの具体的な状況について、以下、みやぎ心のケアセンター活動方針の6つの柱ごとに述べる。

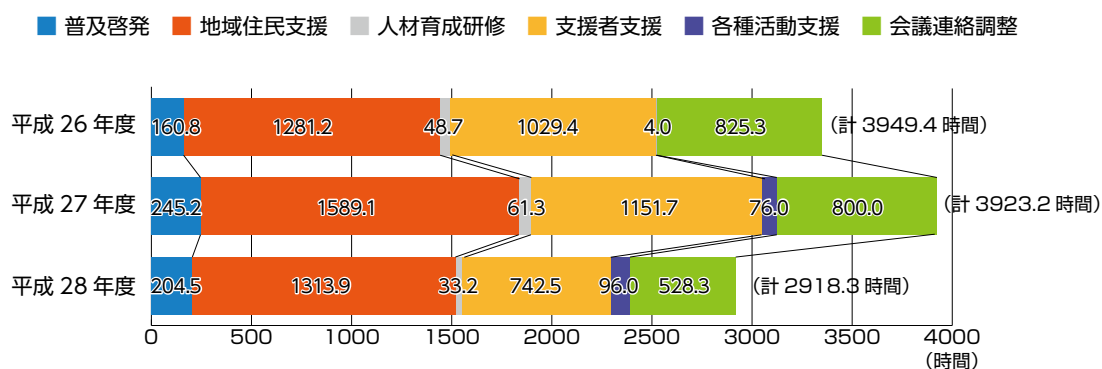


図1 地域支援課における活動時間の推移

(1) 地域住民支援

平成28年度の地域住民の『支援件数』『支援内容』については表1、『相談の契機』については図2に示したとおりである。

表1 支援方法別対応件数（延）

	地域支援課	出向（塩竈市・名取市）
訪問	1,191	131
来所	141	92
電話	266	98
集団活動の中での相談	77	36
手紙でのアプローチ	16	
ケース会議（対象者出席）	3	6
受診同行	8	22
その他	25	9
計	1,727	394

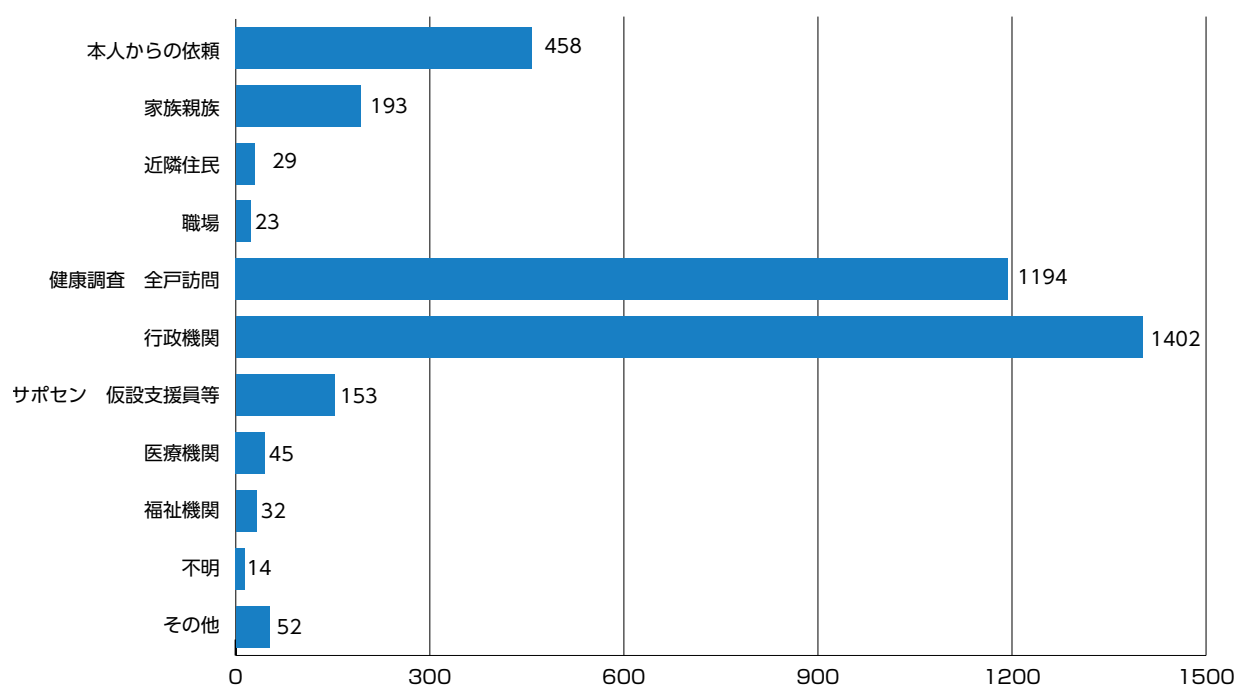


図2 基幹センター活動エリアにおける相談の契機（延件数）

支援内容は、表1のとおり訪問が主である。

相談の契機をみると、『行政機関からの依頼』による訪問や面談が『健康調査全戸訪問（健康調査後のハイリスク者への訪問活動）』を平成28年度に初めて上回っている。『行政機関』からの相談は、虐待疑いや妄想などの症状が出ている高齢者、アルコール関連問題を抱えている方の依頼が多かった。

次に、訪問の件数を経年比較してみると、表2に示すとおり、延べ件数は平成27年度をピークに減っている。

表2. H25 年度～ H28 年度の地域支援課の訪問件数（出向者分含まず）（延）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
地域住民訪問件数	1,064	1,239	1,624	1,191

また、当センターが訪問した対象者の実人数と特徴を業務統計から抽出したところ以下のとおりであった。

平成 28 年度の支援実人数は 952 人であった。このうち、継続支援は 339 人（35.6％）であった。さらに、前年度（平成 27 年度）からの継続支援者は 169 人（49.9％）で、ほぼ半数であった。延べ支援回数は 1,545 回で、平均支援回数は 4.6 回であった。

年齢は 70 歳代以降が最も多く、次に 60 歳代、40 歳代であった。20 歳未満も 9 人いた。

相談背景は、精神変調、健康上の問題、家族家庭問題が多かった。

精神変調の有無は、『精神変調有り』が、1 回のみの支援（613 人中 236 人、38.5％）に比べ、2 回以上継続した場合の方が多かった。（339 人中 221 人（65.2％）

このように、継続ケースに精神変調を抱えている人が多いことが推察されたが、その中でもアルコール関連問題ケースへの支援依頼は、『困難なケース』として依頼される場合が多かった。そのため、アルコール関連問題へのかかわりを地域支援課全体で共有する必要があると考え、以下の把握表を作り支援の現況を整理することにした。

＜アルコール問題のある方への支援状況把握＞

- ①目的：適切な支援を行うため、支援対象を明確にする。
- ②方法：アルコール問題を 4 つの段階に分けて、支援対象を把握する。
 - a 危険の少ない飲酒：特定健診で指導の対象の可能性あり
 - b 危険な飲酒：節酒が目標
 - c 有害な飲酒：生活習慣病の治療が必要な方で節酒が目標
 - d アルコール依存症：専門病院での治療が必要。断酒が目標
- ③結果

アルコール問題で関わった方は、各年齢層にわたっていた。また、同居家族がいる方が多かった。（表 3）（表 3 は当センターで継続支援しているケースを抽出した）

表3 アルコール問題のある方への支援状況

段階別		危険の少ない飲酒 (人)	危険な飲酒 (人)	有害な飲酒 (人)	アルコール 依存症 (人)	合計 (人)
総数		15	10	20	18	63
年齢	20歳代	1	0	0	0	1
	30歳代	1	0	1	1	3
	40歳代	2	4	5	2	13
	50歳代	2	1	2	7	12
	60歳代	8	2	8	6	24
	70歳代	0	3	4	2	9
	80歳代	1	0	0	0	1
家族構成	単身	4	3	12	7	26
	同居家族有	11	7	8	11	37
支援対象者	本人のみ	12	6	15	10	43
	家族のみ	3	3	3	2	11
	本人と家族	0	1	2	6	9
訪問・電話 以外の支援	受診支援	0	0	0	4	4
	断酒会支援	0	0	0	4	4
	AA支援	0	0	0	2	2
	節酒の会	2	2	2	0	6

④考察

飲酒歴の長短や生活状況に即した支援方法を工夫したり、個別の関わりだけではなく家族を含めた支援が必要である。

また、今後の課題として、対象者への介入方法や介入効果を評価するために、アルコール使用障害のスクリーニング方法である『アルコール使用障害識別テスト AUDIT』を活用する技術を身に付け、対象者の状況を確認していくことが大切である。

(2) 支援者支援

定期的に職員を市町被災者支援担当課に派遣し、支援先の困りごとや課題をニーズとして拾い上げ、現場のスタッフと一緒に方策を検討する活動を行った。数名のチームで地区を担当し活動した。

①支援チーム員と支援日数

松島町：精神保健福祉士、作業療法士、保健師のうち2名、週1日

塩竈市：精神保健福祉士、作業療法士、保健師のうち2名、週1～2日

多賀城市：保健師、精神保健福祉士、臨床心理士のうち2名、週3日

大和町：保健師、精神保健福祉士、2名、月1日

富谷町：保健師、精神保健福祉士、2名、月1日

名取市：臨床心理士、精神保健福祉士のうち1名が交代で出向

(平成28年9月までは精神保健福祉士1名のみ)

保健師、精神保健福祉士、作業療法士のうち1～2名、週4日

岩沼市：臨床心理士、作業療法士、精神保健福祉士のうち2名、週2日

亘理町：保健師、精神保健福祉士のうち2名、週2日

山元町：保健師、作業療法士のうち1～2名、週1日

②支援内容

事例検討、カンファレンス・ケースレビューなどの支援方針会議、事務作業の3つの内容が主だった。支援開始から6年目ということで、今までかかわった事例のケースマネジメントや支援のまとめに入る市町が多く、支援台帳作成やケースレビュー資料作成など、事務作業が増えている。

支援スキルアップとしての研修の一覧は表4のとおりである。虐待予防やアルコールなどの問題を持つ家族への対応など、人間関係の対応スキルを求めている傾向がみられる。

表4. 支援スキルアップ研修一覧

研修種類	研修名
支援スキル研修	子どものためのPFA研修（宮城県防災主任者会議）（Save the Children Japan）
	名取市保健センター母子保健研修会『母親に対する見立てと対応』（第1回目）
	名取市保健センター母子保健研修会『子どもの現状と家庭支援』（第2回目）
	多賀城市事例検討会『事例検討の仕方、連携の仕方』
	児童虐待について考える研修会『複雑な問題を抱える家庭への支援』
	平成28年度岩沼市要保護児童対策地域協議会研修会『関わりにくい親への理解と対応』
	平成28年度管内市町精神保健福祉従事者研修会『精神疾患の病態と具体的な対応について』
	亘理町被災者支援従事者研修会『地域が健康になるために必要なこと』
	山元・亘理地区民生委員研修会
職場のメンタルヘルス研修	逢隈保育園園内研修『職員の心のケアについて』
	山元町管理職研修会 心のマネジメントセミナー（同内容別日程2回）
	メンタルヘルス講習会 管理監督者対象講習『ラインケア 職員の心の健康を維持するための方策について』（第2管区海上保安本部仙台航空基地）
	名取市役所管理職対象メンタルヘルス研修会『心理学を活かした職場づくり』（同内容別日程2回）
	山元町社会福祉協議会職員対象メンタルヘルス研修会
自死対策関連問題研修	塩竈市こころの健康づくりボランティア研修会
	こころの健康づくりサポーターフォローアップ講座『コミュニケーションスキルアップについて』
	心の健康づくり研修会『地域でいきいきと子育てするヒント』
	美里町民生委員学習会『自死の第一発見者になったら～惨事ストレスの観点から～』
精神疾患・障害についての研修	塩竈市の保健師対象初任者研修
	発達障害教育研修会（応用コース）『発達障害と医療』（宮城県総合教育センター）
子どものメンタルヘルス研修	名取市増田保育所講話『気になる子ども』
被災地の状況とセンターの活動について	新任保健師研修（塩竈市）

(3) 普及啓発

①住民向けの講演会

これまでは、主に自死予防対策に絡めて自治体と協同して行ってきたが、平成28年度は自治体主体で通常事業として展開されるようになった。しかしながら、各自治体より、講師やテーマの選定について相談を受けることが多く、要望に対応している。実施した研修会や講話を表5に示す。

表5. 住民向けの講演会等

研修名	市町村
塩竈市新規採用職員研修『ストレスについて』	塩釜市
塩竈市健康を考える栄養教室『ストレス解消のコツ～今日からできる！メンタルケア～』	塩釜市
高館公民館あんしん生活講座『ストレスについて/睡眠について/筋膜ケア』	名取市
山元町こころの健康づくり教室（同内容別日程別地域5回）	山元町
メンタルヘルス講演会『若者のこころを知ろう～生きづらさを抱える若者たち～』	柴田町

②心の相談窓口の開設

松島町では、住民総合健診時に心の相談コーナー『お疲れ度チェックコーナー』を設け、K6で抽出された人や希望者の相談に応じた。相談件数と内容は表6のとおりであった。うち8件は支援を継続した。

表6. 松島町疲労度チェック後のこころの相談実施状況

年齢別	人数（実）	相談内容別	（延）
10～19歳	1名	震災関連	2件
20～29歳	0名	家庭問題	14件
30～39歳	4名	身体問題	9件
40～49歳	2名	心の問題	14件
50～59歳	5名	経済	1件
60～69歳	9名	社会生活問題	1件
70～79歳	8名	勤務問題	1件
計	29名	介護問題	1件
		その他	4件

③地域住民交流事業

転居が進む中、孤立しがちな住民に対して、サロンなどの取り組みを通して住民同士の交流の機会を提供した。

名取市では、飲酒し健康に不安を持つ住民に呼び掛け、『健康サロン（節酒の会）』を立ち上げた。節酒プログラムの提供は塩釜保健所岩沼支所から、対象者のつなぎとプログラムの継続支援に関しては名取市から協力を得て実施した。会は15名ほどで構成されている。徐々に次回の活

動の話し合いをするなどの交流がはかられ、参加者の役割を発揮するようになってきた。健康度の向上も結果が出ている。月1回の定例会として継続開催している。

亘理町では、一人暮らし男性を対象とした『メンズクラブ』を開催した。心と体の健康を目的に、調理や運動などを取り入れ、亘理町健康推進課と共同で月1回定期開催した。

山元町では、地域を巡回する啓発事業の『心の健康づくり教室』を行った。「体を動かす機会がほしい。」という住民のニーズに応えるため、住民の交流とリラクゼーションを目的に、作業療法士が楽しく集う活動を企画し実施した。

松島町と塩竈市では、民間賃貸住宅入居者を対象に『互縁会』というサロンを実施した。民間賃貸住宅は点在しているため支援が届きにくく、住民同士のつき合いが薄いなど孤立しやすい状況にあるため、交流や楽しみ、外出のきっかけづくりを目的に実施した。少数の参加ではあったが、「参加者同士のつながりが持てた」との声があった。

これらのサロン活動を通して、住民同士が『その人のもともと持っている力』を取り戻し、つながりを活性化させたと考えられる。

各サロンの実施状況については表7に示す。

表7. 地域住民交流サロン実施状況

活動名	市町村	対象	開催回数	参加者延数
名取市健康サロン(節酒の会)	名取市	一般住民	12	116
亘理町メンズクラブ(65歳未満一人暮らし男性の集い)	亘理町	一般住民	11	26
互縁会(松島・塩竈民間賃貸借上げ住宅入居者対象サロン)	塩竈市	民間住宅入居者	4	15
うつくしまサロン(福島から岩沼市に避難している方を対象としたサロン)	岩沼市	民間住宅入居者	10	155

(4) 人材育成

地域支援課が行った支援者のスキルアップのための専門研修は表5に示す。テーマとしては、精神疾患事例対応、アルコール事例対応が平成27年度と同様であった。平成28年度は各市町から『子育て中の親への支援について』というテーマでの講演依頼があった。

(5) 調査研究

平成28年度は、支援活動をまとめ、2題報告した。1つ目は『多賀城市における東日本大震災被災者支援活動の報告Ⅰ～複数機関・多職種の支援者連携について～』『同報告Ⅱ～継続支援を要する人たちの傾向～』のテーマで、第15回トラウマティックストレス学会にてポスター発表を行った。2つ目は『名取市における節酒活動～健康サロンの立ち上げと効果～』というテーマで、第38回アルコール関連問題学会秋田大会シンポジウムにて報告した。

(6) 各種活動支援

①断酒会

名取市保健センターで『断酒を目指す会』を定例開催した。地域で支援する際の受け皿としての断酒会を立ち上げる準備段階として、NPO法人宮城県断酒会と医療法人東北会東北会病院の

協力を得て開催した。参加者は毎月数名で、当事者すべての定着には至らなかったが、1名が継続して参加することができた。このことは、支援者が継続的にかかわり、参加者との関係性を深めたことが要因の一つであったと考えられる。また、名取市の広報を見た家族や地域の病院職員の参加もあり、家族や支援者への関心も広がった。平成29年度からは断酒会主催で名取断酒会として開催されることになり、当センターは、支援している対象者が会に足を運べるような動機づけや地域の関係機関への普及啓発に継続して協力していく。

②うつくしまサロン

うつくしまサロンは、岩沼市の被災者復興支援スマイルサポートセンターが主催している福島からの避難者対象の交流サロンである。参加者の被災前の生活の場は南相馬市、双葉町、浪江町などである。同じ境遇の参加者の交流をはかる場として定着しつつあることと、被災市町などから情報を得る機会にもなるため、参加者からは継続開催の要望があり、毎月定期的な開催を継続している。利用者は、しだいに仙南地区広域にわたるようになってきている。ニーズは高まっているが、住民支援として開催していた岩沼市は、平成28年度をもって市としての支援を終了することとなり、引継ぎ先を探す状況であった。平成28年度は共催という形で支援したが、平成29年度は、当センターの事業として、スマイルサポートセンターの協力を得て実施する予定である。

③名取市被災児支援イベント『げんきっ子』

被災した児童を対象にした遊びのイベントに参加し、家族の相談に応じたり、親子へ継続的に対応した。(3回参加)

④塩釜市の仮設住宅入居者支援

塩竈市に出向の職員は、塩竈市の事業の『ほっとサロン』や『リハビリテーション相談会』を定期的に開催し、自己ストレスチェックなどの普及啓発も取り入れている。

表8. 各種活動支援状況

活動名	市町村	対象	開催回数	参加者延数
名取断酒を目指す会	名取市	一般住民	12	28
塩竈市ほっとサロン	塩釜市	一般住民	5	24
塩竈市仮設住宅リハビリテーション相談会(伊保石仮設住宅集会所)	塩釜市	仮設住宅入居者	4	6
塩竈市北浜県営住宅北親会サロン	塩釜市	一般住民	1	9
名取市被災児童向けサロン事業『名取げんきっ子』	名取市	一般住民	3	135
被災者の会『めぐり愛の会』	名取市	一般住民	1	9

3. まとめ

災害後6年が経過し応急仮設住宅からの移転がピークを迎えた。長期的な避難生活による影響はもとより、環境の変化に伴った健康障害や重症化が予想される。個別の問題も多様化し、多角的かつ包括的なかかわりが求められている。

このような時期に、地域支援課は、『中長期的な支援としてどんな人にどんなかかわりが必要なのか』という課題の検討を重ねてきた。

対象者は、年々重症かつ多様な問題を抱え、一筋縄ではいかず、時間と人手が必要とされる。今後も、

一人一人を大切に寄り添えるような支援を継続していきたい。

また、中長期的支援には地域の実情に合わせた予防的な取りくみも重要と考える。これは、次年度の課題として関係機関と協議を重ねていくことが必要と考える。

震災後6年経った今でも住民のさまざまな思いを耳にする。「ようやく生活基盤の手続きが終わった。」「やっと大変だったことを話していいのかと思えるようになった。」と安堵する一方、「震災を昨日のことのように思い出す。」と震災の影響が続いていることを語る住民も多い。

私たちは、そのような住民のもとに出向き、傾聴し、共感的によりそうことがまだまだ必要と考え、地道な活動を続けている。